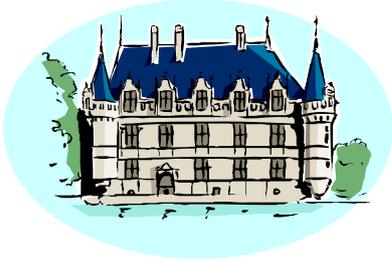


いいところで、近い沖縄 (11月のごあいさつ)



平成20年11月26日

先週、ファミリービジネス研究所のコンファレンスがあった。
場所は長崎のハウステンボス、2泊3日の長崎の秋で学び、楽しんだ。
ハウステンボスは、博多から新幹線で1時間40分。
1時間40分というのは結構長い、電車に乗るだけで、一体どこへ行くのかという感じがしていた。
到着すると、全く異なった景観が突然現れた。日常から大きく離れた空間に入ったという感じがした。

ハウステンボスは、オランダの400年の国づくりに学びながらストーリーを作り、「人と自然が共存する新しい街」を目指して3,000億円の巨費を投じて造られた。当初、目標とされた年間400万人（現在218万人）の入場者、500億円の売上などという外形的なものではなく、内容の充実した、ほんとうの1000年の街づくりを期待する。私が今、そこで感じた、静かな、自然にあふれた発展をしてもらいたい。

とてもいいところである。しかし遠い！ もう一度となると遠さを感じてしまう。帰りの1時間40分の電車の中で考えた。

沖縄をハウステンボスと比較するのは、少し方向違いかもしれない。しかし、両方とも他とは分離された空間であり、つい、一緒に考えてしまう。ハウステンボスはテーマパークである。沖縄も広くとらえるとそれ自体でテーマパークであるともいえるのではないか。

空港を出ると、10分余で那覇の街へ入る。少しドライブして南へ足（車）を伸ばせば、戦跡や玉泉洞へ行ける。那覇を抜けると首里城がある。

那覇で泊まってからでもよし、その足でも、北部のリゾート地へ、或いは宮古、八重山の離島を訪れることが出来る。

とてもいいところである。しかも全てが近い！ 感じが良ければ、もう一度訪れるのに抵抗はない。それだけに、沖縄には良きホストの心構えが必要である。

観光資源の開発、ゲストの暖かい受入れ、交流、経済効果の促進と享受、そして何よりも大切な自然環境の保全…。